第4回 国際標準化対応支援委員会/運営委員会 国際会議補助報告書

資料 No.	<sc3d 関係="">国際会議報告書</sc3d>
4-3/SC3D-	SC3D「電子部品のデータ要素」プラ八国際会議出席報告書 20081006-20081008
資料 No.	<sc62a 関係="">国際会議報告書</sc62a>
4-3/SC62A-	SC62A/JMG3「ソフトウエア対応 G」リューベック国際会議出席報告書 20080915-20080917
4-3 / SC62A-	SC62A/JWG7「IT ネットワーク機器のリスクマネジメント」ワシントン国際会議出席報告書 20080924-20080926
資料 No.	<sc62d 関係="">国際会議報告書</sc62d>
4-3 / SC62D-	SC62D/JWG5「医用電子機器/パルスオキシメータ」マサチューセッツ国際会議出席報告書 20080825-20080829
資料 No.	<tc100 関係="">国際会議報告書</tc100>
4-3 / TC100-	TC100-JTC1 Coordination「AV マルチメディアシステム及び機器」ニューヨーク国際会議出席報告書 20080821
資料 No.	< TC100/TA1 関係 > 国際会議報告書
4-3 / TC100TA1-	TC100/TA1「放送用エンドユーザ機器」パリ国際会議出席報告書 20080910-20080911
資料 No.	< SC31 関係 > 国際会議報告書
4-3 / SC31-	SC31「自動認識及びデータ取得技術」ピッツバーグ国際会議出席報告書 20080818-20080820

(社)電子情報技術産業協会 運営委員会・資料番号: 4-3 / SC3D- (事務局記人)

国際標準化対応支援委員会 御中 提出日: 2008年 10月 14日

(報告者記載)予算番号: H20SC3D

国際会議出席報告書

国際会議235条員名:南野 典子 報告書作成者氏名: 細川 晃 (会社名)株式会社 東芝

出席会議名(半角)	区分		/ [/ that	
IEC TC3&SC3Dプ ラハ会議	□TC ☑SC □TA ☑WG □PT	□その他	組織番号 (TC/SC/TA)	SC3D (半角)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	電子部品のデータ要素
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	図その他	(日本語)	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	□単独	開催 □同時開催
開催期日	2008年 10月	6日~ 2	2008年10	月 8 日
開催場所	(国名)チェコ	(都市名)) プラハ	
チェアマン / コンベ ナ	村山廣	幹事国	ドイツ	
参加国及び 参加人数	5ヶ国、主な国名日本、ドイツ、オランダ、ス	くウェーデン	/、フィンラ:	ンド、参加人数 (14)
日 本 人	[:補放豫者··(例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会招)	村山 廣(東芝)、 荒木 純夫(ビューポインド静脉学研究所)、 細川 晃(東芝)			

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は 見かけは1行ですが 所定欄に改行しなが6最大28行まで記入できます。)

今回の参加目的は、日本発のスプレッドシートによるデータ表別形式の規格提案および同形式を IEC SC3D の電気電子分野の辞書データベース規格 IEC-CDD の入出力フォーマットとすることの賛同を得ることである(*)。これらの会議では、本提案の元となる ISO/TS13584-35 を拡張することで、IEC61360 で定められたデータモデルだけでなく、他の IEC/ISO の標準データモデルへ展開が可能であることを紹介した。また、IEC CDD へ計測器関連の辞書提案を行おうとしている SC65E が求める Composition (いわゆる部品表)情報が、本提案形式から Excel ベースのツールを利用して完全に生成できることを示した。これらの理論面・実装面の紹介を通して、本議論に参加したドイツ、オランダ、スウェーデンのすべての国から同形式の規格化に対して強い賛同を得られた。

その他のトピックとして、SC3D と IEC TC111 との間でリエゾン関係を結ぶこと、およびこれまで決まっていなかった ISO/IEC JTC1/SC32 のリエゾン代表を選出することが可決され、それぞれリエゾン代表として SC3D 国際議長である日本の村山廣氏を選出することが決定された。また、IEC61360-1 に記載される辞書の定義を記述する際のルールについての審議が行われ、7 項目で構成されるルールが出席者全員の賛成をもって可決された。同様に、単位についての審議が行われ、5 項目の説明文が作成されたものの、独委員の強い反対で結論は持ち越された。

(*) 本規格提案は、平成 20 年度経済産業省事業の一つとして、SC3D 国内委員会メンバーの他、JETTA/EC センター、JEMA の メンバーから構成される委員会において活動している。

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に<u>国際会議担当委員経由</u>で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
 - 会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
 - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
 - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
 - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
 - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1(千代田ファーストビル南館) Tel:03-5275-7259 Fax:03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

(社)電子情報技術産業協会 運営委員会・資料番号:4-3/SC62A- (事務局記人)

国際標準化対応支援委員会 御中 提出日: 2008年9月24日

(報告者記載)整理番号: H20SC62A

国際会議出席報告書

国際会議123委員名: 市川義人 報告書作成者氏名: 中里俊章 (会社名)東芝メディカルシステムズ(株)

			*** * ** = # *(1.17	
出席会議名(半角) JWG3	区分 Птс Пsc Пта 図wg Пpт	組織番号 □ その他(TC/SC/TA)	SC 62A/JWG3 (半角)	
	TC SC TA WG PT	□ その他 名 称 □ その他 (日本語)	ソフトウエア対応G	
	□TC □SC □TA □WG □PT		開催 □ 同時開催	
開催期日	2008年9月15日 ~ 2008年9月17日			
開催場所	(国名)ドイツ (都市名)リューベック			
チュアマン / コンベ ナ	Patricia Krantz 幹事国 米国			
参加国及び 参加人数	6ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、イギリス	、イタリア、スウェー	デン、日本 参加人数 (12)	
日 本 人 [:補放像者・・・(例): 電子太郎(JEITA電子)] 出席者名(会) 三浦重孝(サクラ精機)、横井英夫(香川大)、中里俊章(東芝メディカルシステムズ)				

:議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

「IEC/TR 80002 Application of ISO 14971 to medical device software」CD1 に対する各国コメント解決を目的とする第5回WG (JWG3)に出席したので報告する。(Lubeck、Drager Medical 社内会議室にて)

第4回よりコンベナとなったPatricia Krantz 氏が3日間審議単行と解**結**認を執る形で進められた。コメント総数719(9カ国)であり、General: 103(3) Technical: 251(32) Editorial: 365(20) からなる。()内は日本

審議当初コメント総数が多いことからサブグループに分けて行うべきとの意見もあったが、コメントを踏まえた本文見直し案特第:Procest を除く本文に関するコメントを全員会議の中で審議し、解決できた。

全体議事:

コメントは全体 3章(General requirements for risk management) および6章(Risk Control) に関するものが全体の58%を占め、ここに審議制制も2日間を要した。ソフトウェア自体のもしくは関連するリスクを捉え、かつIEC 62304を踏まえたガイドラインとするという点で一致し審議を進めた結果、随所にシステムとしてのリスクマネジメントと同様な記載があり、「削除」という解決が多くなったことが特徴である。これはCD1 がISO14971 の構成に沿って寄稿されたため、各章に何らかのガイドを示そうとしたことが原因。また、審議を進める間に次第に一般化しすぎて、読者をリスク・マネージャとソフトウェア技術者と想定した初期の目的を果たさない文書になりつつあるという危惧が残った。日本が担当した9章 Production and post-production information には大きな修正はない、また提出したコメントはすべて受け入れられた。各担当分の見直し案を Krantz 氏に 2008/11/7 までに提出することを決め、閉会した。

その他、2009年はIEC 62304の見直し年であり、その活動

に開始される可能性がある。

今後の予定:

各担当の見直し案の提出:~2008/11/7

コンベナから修正後のCDV 案送付: 2008/11/24

CDV 案審議 (サニベル会議): 2008/12/45 (一部リスクマネジメントチームと議論する)

CDV 回付: 2009/3

[注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル) Tel: 03-3518-6435 Fax: 03-3295-8727

(社)電子情報技術産業協会 IEC活動推進委員会 御中 運営委員会・資料番号: 4-3 / SC62A- (事務局記入)

漏記入) 様式 4

提出日: 2008年9月29日

(報告者記載)整理番号: H20SC62A

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名: 市川義人 報告書作成者氏名: 神谷正樹 (会社名)東芝メディカルシステムズ

出席会議名(半角) JWG7	区分 図TC 図SC □TA 図WG □PT	□その他	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A/JWG7 (半角)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名称 (日本語)	IT ネットワーク機器のリスクマネ ジメント
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	
開催期日	2008年9月24日 ~ 2008年9月26	日		
開催場所	(国名)米国	(都市名)) ワシントン	DC
チェアマン/コンベナ	Sherman Eagles / Todd Cooer	幹事国米	国	
参加国及び 参加人数	5ヶ国 主な国名 米国、ドイツ、英国、カナタ	ズ、日本、参	刎人数 (27)
日本人出席者名(会)出	[:補財が象者・・・(例): 電子太郎(JEITA電子)] 神谷正樹(東芝メディカルシステムズ)			

議事概要(背景・目的・成果・問題点など) (この欄は 見かけは1行ですが 所定欄に改引しなが5最大28行まで記入できます。)

背景・目的

- ・今回は、前回のスウェーデン イヨテボリ開催した 1 CD に対する Comment Resolution の続きと 2 C D作成が目的である。 議事・内容
- 1.1CD にコメント (2008/3/14 コメント締め切り) に対する議論 (Comment Resolution)
- 1.1 80001 について

予め事務局から上記コメント(269 コメント)について Accepted/Rejected/to be discssed の3つに分類し、to be dicsussed の1項目について議論を行った。

日本からのコメント (12件) は、Accept: 8件、ToBeDiscussed: 4件 (コメント番号 60,720,780,1500) である。 ToBeDiscussed である コメントのうち コメント 1500 は、Rejected された。

- 1.2 Annex について
- (1) Security

FDA Brian Fitzgerald 氏から提案された Security に関する Annex。Medical Device について IT-network に接続した場合に想定するユースケースごとに、必要とされるセキュリティをチェックするためのユーザ向けセキュリティチェックリストとして用いられることを想定した Informative annex。

各国のセキュリティに関する要件 (Security reference)を2CDまでに反映させる予定。

(2) Wireless/Network Categoly

Wireless 運用時のリスク管理 およびそれを含む Network のカテゴリごとにリスクのランクを決め、そのランクに対応したリスク管理を行うことを想定した annex。

議論した内容を2CDに盛り込む予定。

「今後の予定]

·IS 化までのスケジュールの再度の見直しがされた。見直し後のスケジュールは以下の通り。

2CD 2008/11 1CDV 2009/9 FDIS 2010/8 IS 2010/12

2008/11 に公開される 2CD のコメント締め切りが 2009/2/M。2CD のコメントに対して、2009/3/23-25 にドイツ フランクフルトにて次回 JWG7 を開催予定。

以上

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
 - 会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
 - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
 - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
 - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

(社)電子情報技術産業協会 運営委員会・資料番号:4-3/SC62D- (事務局記人)

国際標準化対応支援委員会 御中 提出日: 2008 年 9 月 29 日

(報告者記載)整理番号: H20SC62D

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名: 内藤正章 報告書作成者氏名: 中谷 敬 (会社名)日本光電工業株式会社

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
出席会議名(半角)	区分		組織番号	SC62D (半角)
SC62D/JWG5	□TC □SC □TA ⊠WG □PT	□その他	(TC/SC/TA)	30020 (丰用)
Pulse oximeters	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	電気医療機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	电火心分別戏品
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	⊠戦	開催 □同時開催
開催期日	2008年8月29	5日~ 2	2008年8月	29日
開催場所	(国名)アメリカ	(都市名)	Cambridge,	Massachusetts
チュアマン / コンベ ナ	J. Hedley-Whyte	幹事国	アメリカ	
参加国及び	2ヶ国、主な国名アメリカ、日本、参加人数((7)		
参 加 人 数				
日 本 人	[:補放豫者···(例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会)名)	中谷 敬(日本光電工業株式会社)			

議事概要 (背景・目的・成果・問題点など) (この欄は 見かけは1行ですが 府が欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

背景: パルスオキシメータに関する国際規格 IEC/ISO 80601-2-61 の制定作業が開始された。安全通則 IEC 60601-1:2005 第3版の個別規格として、現行規格 ISO 9919 を改定する。IEC/SC62D と ISO/TC121/SC3 の Joint Working Group JWG5 で担当する。NWIP が昨年 12 月に発行され、各国より提出されたコメントに対して会議で審議する。

目的:安全通則第3版との編集上の整合性を取ることが、今回の改定の主目的である。各国より提出されたコメントを基に、次のような点を討議した。

- (1) 基本性能 (essential performance) の規定
- (2) EMC immunity 試験下での基本性能の維持規定
- (3) 安全通則第3版に対応する副通則の適用規定
- (4) その他技術上、編集上の修正

成果:討議結果を基に CD 案を作成し、62D/718/CD として回付された。この CD は、来年 2009 年 1 月京都で開催される SC62D/JWG5 で討議される。日本からは、主に精度に関する規定、記述に改良を求めた。また、現行規格ISO 9919のJIS 化翻 訳の過程で明らかになった問題点にも修正を求めた。日本からの修正要求は、主要なものは概ね受け入れられた。

問題点:次の問題点が討議された。

- (1) 今後一般在宅用にもパルスオキシメータが普及していく可能性がある。こうした在宅用途に対して、どのような要求事項を規定 すべきかが討議されたが、時期尚早ということで、次回改定に持ち越された。
- (2) シミュレータによる脈が酸の精度、 は、 pot-mean-square (ms)表示することになっている。 シミュレータの場合は、 ms表示での必要性は無いとのコメントを日本より出したが、 受け入れられなかった。 修正提案を再度検討した上で、 次の CD コ メントを出したい。
- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に<u>国際会議担当委員経由</u>で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11(三井住友海上別館ビル) Tel: 03-3518-6435 Fax: 03-3295-8727

(社)電子情報技術産業協会 運営委員会·資料番号: 4-3 / TC100- (事務局記人)

国際標準化対応支援委員会 御中

提出日: 2008年9月22日

(報告者記載)予算番号: H20TC100

国際会議出席報告書

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。)

TC 100 では ISO/IEC JTC 1 の議長、国際等と情報交換を行っている。 2008年には、 既に 5月 13 日にニューヨークで打ち合わせを行い、 有益な情報交換が実現できた。

本年は、この会合に加えて、6月開催のSMB決議 132/9 (TC 100 と ISO/IEC JTC 1、ITU-T、ETSI との間で共同して IPTV、ホームネットワーク関連の標準化を進めるべきと)を実現するために、JTC 1 との更なる情報交換が必要となり、8月 21 日に JTC 1 国際等事の Lisa Laychel 女史が勤務するニューヨークの ANSI で会議を行った。 TC 100 議長である Mark Hyman 氏もニューコーク在住である。 JTC 1 議長の Scott Jameson 氏、次期議長候補の Karen Higginbottom 女史は電話会議で参加した。

SMB 決議 132/9 への対応は、TC 100 High Level Meeting を開催する方向で提案、Scott Jameson はIEC Sao Paulo 総会に参加する予定であること、ITU-Tの End Systems Raporteurs も Sao Paulo 会合に参加可能であることから、第一回会合は Sao Paulo で開催可能、JTC 1 奈良会合の直後のため 11 月 20 日開催が都合がよいこと、として日時を決定することが出来た。

JTC 1 奈良会合での、TC 100 プレゼンは、少し無理を飲んでもらい、11 月 10 日月曜日の 10 時から 10 時 30 分で調整できた。 初日は、SC 議長、国際特事が全員集まる会合であるため、TC 100 の活動内容を効率的に伝えることが出来る日程である。

2009年のIEC テルアビブ総会にはTC 100、JTC 1 とも参加するため、Joint Management Meeting を計画している。IEC イスラエルNC は 2 週間の会議予定で、前半が後半の選択を要請しているため、TC 100、JTC 1 とも後半を選ぶことになった。10月 18日、日曜日にスタート、三日目の 10月 20日、火曜日午後に第一回のTC 100/JTC 1 合同会合を開催することが決まった。会議後、イスラエルNC に会議日程を通知し、200 名収容の会議室を確保するように双方から要請した。

次回は、電話会議で9月28日夕刻(日本時間)を予定していたが、Mark Hyman 氏の都合が悪くなり、日程を再調整中である。

- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に<u>国際会議担当委員経由</u>で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
 - 会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
 - 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
 - 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
 - 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
 - 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1(千代田ファーストビル南館) Tel:03-5275-7259 Fax:03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

(社)電子情報技術産業協会 運営委員会·資料番号: 4-3 / TC100TA1- (事務局記人)

国際標準化対応支援委員会 御中 提出日: 2008 年 10 月 10 日

(報告者記載) 予算番号: H20TC100TA1 予算無

国際会議出席報告書

国際会議当委員名: 伊賀公幸 報告書作成者氏名: 伊賀公幸 (会社名)株式会社東芝

		CATTO / 1/		<u> </u>
出席会議名(半角)	区分			
TC100/TA1 STB消費電力測定 方法アドホック会 議	□TC □SC □TA □WG □PT	⊠その他	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA1 (半角)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	名 称	ナゲナ田ナン・ドコ 18 888
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	(日本語)	放送用エンドユーザ機器
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	⊠単独	開催 □同時開催
開催期日	2008年9月10	0日~ 2	2008年9月] 11 日
開催場所	(国名) フランス	(都市名)	パリ	
£177)/11/1 [°] t	Mr. Keith Jones	幹事国	日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国 主な国名 豪 米 独 日、参加人数((6)		
日 本 人	[:補放豫者··(例): 電子太郎(JEITA電子)]			
出席者名(会培)	伊賀(幸(東芝)、 内藤明彦(パイオニア)			
議事概要(背景・目的・成果・問題点など)(この欄は 見かけは1行ですが 所定欄に改元しながら最大28行まで記入できます。)				
IEC 62087 "Methods of measurement for the power consumption of audio, video and related equipment"の TV 部分の改定				

IEC 62087 "Methods of measurement for the power consumption of audio, video and related equipment"の TV 部分の改定 (TV の消費電力測定法) に続いて、STB の消費電力測定法の改定を行うことが、第1回アドホック会議(2008/4@バンコック)で決定された。その会議での決定に従って、第2回のアドボック会議に出席した。その結果を報告する。

- ・ STB の定義を議論した。Set Top Box とは元来テレビ受像機の上に設置する装置を意味しており、薄型テレビの普及などテレビ受像機の上に置かれる事はなくなっているので新たに External Television Receiver(XTR)と定義する。
- On Mode の測定法の定義に注力する。
- ・ TC111 の IEC 62542 "Standardization of environmental aspects Glossary of terms" (ANW Approved New Work 段階) で Standby mode と Active mode の定義を検討していることが紹介された。今後参考にすることになる。
- ・ ユーザに依存する動作モードとオペレータ(送り側)に依存する動作モードを整理、対比して、動作状態を整理することになった。
- 次回はIEC総会のサンパウロ(11/19 AM, 11/20 PM)
- その次は、CES(2009/1@ラスベガス)の場で二日間開き、CDレベルまで持ってゆく。IS は 2010/6 を目標

注:申請時はブリュッセル開催だったが、会議場所の都合でパリに変更された。

[注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1(千代田ファーストビル南館) Tel: 03-5275-7259 Fax: 03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

(社)電子情報技術産業協会 運営委員会・資料番号: 4-3/SC31- (事務局記人)

国際標準化対応支援委員会 御中

提出日: 2008年 10月 15日

(報告者記載)予算番号: H20SC31

国際会議出席報告書

国際会議出受員名: 本田 邦夫 報告書作成者氏名: 富岡 健 (会社名)富士通

出席会議名(半角)	区分		組織番号	SC31 (半角)	
SC31/WG3/SG1	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT		(TC/SC/TA)	3031 (千角)	
SC31/WG4/SG3	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	◯ その他	名 称	自動に織及びデータ取得技術	
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT	□その他	(日本語)	田里加州成文 () プログログ ()	
	□TC □SC □TA □WG □PT	□その他	□単独	開催	
開催期日	2008年8月18日 ~ 2008年8月20日				
開催場所	(国名)米国 (都市名)ピッツバーグ				
£17₹)/1V^* t	WG3/SG1: J.Pfluegl, WG4/SG3: S.Halliday 幹事国 米国				
参加国及び 参加人数	15ヶ国、主な国名 米国、イギリス、ドイツ、フランス、韓国、オーストリア、参加人数 (41)				
日 本 人 [:補放嫁者··(例): 電子太郎(JEITA電子)]					
出席者名(会社名) 富岡健(富士通)、本業純(日立)、渡辺淳(デンソーウェーブ)					

議事概要(背景・目的・成果・問題点など)にの欄は見かけは1行ですが、府定欄に改元ながら最大28行まで記入できます。)

<WG3SG1> RFID ゴンフォーマンス

- ・RFID の性能環境方法及び適合性環境方法について審議がおこなわれている。RTLS(Real Time Location Systems)に関しては ISO/IEC24769 (適合性環境方法) と ISO/IEC24770 (性能環境方法) の DTR 投票はパス。DTR 投票で各国から提出されたコメントは BRM(Ballot Resolutin Meeting)により解決され、TR の発行が承認された。
- ・ISO/IEC18046 シリーズの審議状況は、Part1(システム性指語環方法)とPart2(リーダライタ性指語環方法)はWorking Draft 作成f
 卵脂にあり、継続して Ad-hoc Group により検討を進めることとなった。
- ・ISO/IEC18047 シリーズの審議状況は、Part3 REV1 と Part6 REV2 の NWIP 投票はパスし作業を開始することが確認された。 Part7_REV1 は、Ad-hoc group により Working Draft の作成が進められている。次回のスイス会議(2008.11.10)後に CD 投票へ進めることとなった。
- ・これまで、RFID の性能調節方法及び適合性調節方法については、WG3/SG1 で審議が進められてきたが、次回スイス会議よりWG4/SG6 として進められる。
- <WG4/SG3> RFID Iプイグフェース
- ・RFID のエアーインターフェースプロトコルについて審議が行われている。ISO/IEC18000 シリーズでは Part2_REV1 と Part7_REV2のCD投票はパス。各国から提出されたコメントはBRMにより解決され、FCDへ進めることが承認された。
- ・RFID に求められるセキュリティ機能について、今後の標準規格化の方向性について議論が行われた。議論に先立ち、日本を含む5カ国(オーストリア、米国、韓国、南アフリカ)から RFID のセキュリティに関連するプレゼンテーションが行われ、セキュリティ機能を議論する上でベースとなる様々な情報がインプットされた。この中で、日本からは、2006 年度経済産業省研究開発委託事業のセキュア電子タグプロジェクトの成果に基づいたセキュアタグに関するプレゼンテーションを日立製作所が行った。今後進められる RFID のセキュリティ機能の標準規格仕様検索打に向けて、WG4 の中に新たに Subgroup を設置することが意見され、新たにセキュリティを検討する WG4SubGroup 設置の NWIP が SC31 へ提案されることとなった。
- [注]: 1.該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。 国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

- 2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
- 3.WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
- 4.報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
- 5.この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1(千代田ファーストビル南館) Tel:03-5275-7259 Fax:03-5212-8122